授業づくり研修講座　実践レポート

　　東原小学校　　　　　　　氏名　野手　裕歌

１．単元名　　　国語　　第１学年　「みのまわりのいきもの」

２．実践のポイント

●つながりのある文や文章を書くこと

●文章の間違いに気付いて正すこと

●「書きたい」という意欲をもたせること

３．実践内容（全１０時間）

1. 学習の見通しを立てる。　　 ・「いきものずかん」を作成することを伝え、意欲を持たせる。

 ・生活科で虫捕りをし、選んだ虫の観察メモを書く。

1. メモをもとに観察文を書く。　 ・紹介したい虫の特徴を絞らせる。（ワークシート）

・原稿用紙の種類を選択させる。

　　　　　　　　　　　　　　 ・書き出しを数種類提示し、選択させる。

1. 書いた文章を読み合い、書き直す。　　 ・仮名や句読点の間違いを付箋に書いて指摘し合う。
2. 書き直した文章を読み合い、良いところを伝え合う。

　　　　　　　　　　 ・文章の内容の良いところを付箋に書いて伝え合う。

　　　　　　　　　　 ・支援が必要な児童には、付箋に書く文例をいくか提示する。（ヒントカード）

1. 「いきものずかん」を作成する。　　　　・完成した文章に虫の絵を描き足し、製本する。

≪児童の作品≫

コオロギのとくちょうは、いろです。なぜかというと、つちのいろににていてつかまえるのがむずかしいからです。からだのいろは、こげちゃいろと、ちゃいろと、くろいろです。

ぼくがえらんだいきものは、なめくじです。なめくじのうごきかたは、ゆっくりでニョロニョロあるきます。なめくじは、そのときどんなきもちだったのかしりたいです。

バッタは、なにバッタなのか、とてもきになります。つかまえたバッタがさようならするとき、いつもよりとびはねていました。よっぽどうれしかったんだとおもいます。メスバッタだったから、いまたまごをうんでるかな。